

関西本格進出の足掛かり

武蔵野ロジ ■ 京都センター稼働

独自センター建設も構想

【埼玉】武蔵野ロジステイクス(渡辺雅之社長、埼玉県三芳町)の関西地区2つ目の拠点となる京都センター(京都府八幡市)が11月26日から稼働した。グループ企業で弁当の製造・販売などを手掛ける武蔵野(高橋信孝社長、埼玉県朝霞市)が同15日に開設した京都工場

の敷地内に事務所を設置。同工場はセブーンイレブン・ジャパンの配送センターを併設しており、主力業務はセブーンイレブン関連となるが、将来的には事業の多角化を推進して、独自の物流センターを建設することで関西地区本格進出の足掛かりとしたい考えだ。

武蔵野ロジは、関西エリアには三木センター(兵庫県三木市)のほか、東大阪センター(大阪府東大阪市)を構えていたが、今回の京都センター開設に伴い、東大阪を閉鎖して、三木との2拠点に集約。京都センターが主に、旧東大阪センターのエリアをカバーしてい

く。京都センターでは、三木センターのようにコンビニエンスストアの配送は行わず、当面はセンター間の横持ち業務をメインに展開。スタッフは数人でスタートし、自社は持たず、庫内作業も含め輸送業務は全て協力会社が対応する。渡辺社長は「京都センターでは、武蔵野やセブーンイレブンにとられず広く荷主獲得を推進し、関西地区本格展開の拠点とした。時期は未定だが、その頃には移転して、当社独自の物流センターを建設する

ことになるだろう」と構想している。

(谷本 博)